

日本建築学会建築博物館主催

特別展示

監獄建築の近代

その思想と空間

明治政府は不平等条約の改正という政治課題を背景に、監獄行政の方針を従来の「応報主義」から受刑者の更生を目指す「教育主義」へ転換した。山下啓次郎を中心とする司法省管轄の技師たちは、その新しい行刑思想を建築空間として具体化すべく監獄建築の設計に尽力した。

監獄建築はその閉鎖性ゆえ、それらが一体どのような空間であったかこれまで不明であったが、近年、遺された監獄建築が文化財指定を受け、その内部が公開されるようになると、その空間には地域や形式の違いを超えた一貫性があることがわかってきた。奈良監獄（1908 竣工）から小菅刑務所（1929 竣工）までの約 20 年間、司法省管轄課が受刑者の更生のために造り出した空間とはどのようなものであったか。豊富な新出資料とともにそれを伝える展覧会とする。

展覧会

期日：2026 年 11 月 14 日（土）～ 11 月 29 日（日）

会場：建築会館ギャラリー（東京都港区芝 5-26-20）

開館時間：9:00 ～ 19:30

（14 日を除く土日祝日は 17:00 まで）、入場無料

記念シンポジウム

日時：2026 年 11 月 14 日（土）13:00 ～ 16:30

会場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

※シンポジウム詳細は裏面をご覧ください。